

講演4

北海道大学CoSTEPの学術誌  
『科学技術コミュニケーション』

種村剛  
『科学技術コミュニケーション』編集委員長 CoSTEP特任助教  
川本思心  
同 副編集委員長 理学研究院/CoSTEP 准教授

科学技術コミュニケーション  
JJSC Japanese Journal  
of Science  
Communication  
日本初の科学技術コミュニケーション専門誌 CoSTEP

北海道大学CoSTEPとは

- 北海道大学 高等教育推進機構  
オープンエデュケーションセンター  
科学技術コミュニケーション教育研究部門  
(CoSTEP : コーステップ)

～くわしくはウェブで  
・ <https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/>

科学技術コミュニケーション 2


学術誌『科学技術コミュニケーション』  
(JJSC) の概要

- 2007年3月、日本初の科学技術コミュニケーションに特化したジャーナルとして創刊（今年で10周年）
- CoSTEPが発行、『科学技術コミュニケーション』編集委員会が編集
- 定期的に発行、投稿は365日受付
  - ～年2回、6月と12月に発行
  - ～現在21号編集中

科学技術コミュニケーション 3

JJSC 創刊の目的

- 科学技術コミュニケーションの活動報告
- 交流の場
- 知識の累積



科学技術コミュニケーション 4

JJSC21号担当 編集委員会

- 種村 剛 (CoSTEP)
- 川本 思心 (理学研究院/CoSTEP)
- 池田 貴子 (CoSTEP)
- 奥本 素子 (CoSTEP)
- 重田 勝介 (情報基盤センター)
- 立澤 史郎 (文学研究科)
- 西尾 直樹 (CoSTEP)
- 早岡 英介 (CoSTEP)
- 古澤 輝由 (CoSTEP)
- 松王 政浩 (理学研究院)
- 村井 貴 (CoSTEP)

CoSTEPのスタッフが編集委員会の中心

科学技術コミュニケーション 5

JJSC 年間予算

- CoSTEPの予算から120万円を計上（2016年度）
- 2016年度は約100万円が印刷・製本費用（2巻、それぞれ500部印刷）

科学技術コミュニケーション 6

## JJSC21号の刊行スケジュール

- 3月頭：21号掲載を目指す場合の締切目安
- 3~4月：査読結果連絡、著者修正・確認
- 5~6月：掲載原稿集約、第1校著者校正  
著者校正戻し、第2校、編集の確認
- 6月末：原稿をHUSCAPに登録
- 7月末：冊子体の印刷、関係者への送付
- 第21号は小特集（査読無・寄稿）を掲載
  - CoSTEP主催のシンポジウム講演録を中心に構成
  - 科学技術とアートがテーマ



## JJSC の特徴 (1)

- 誰でも投稿できる
  - 投稿資格なし
  - 投稿のためのアドバイザーを設置
- 誰でも読める
  - ウェブから全文を読むことができます
  - <http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/jjsc/>
- 査読料・掲載料は無料

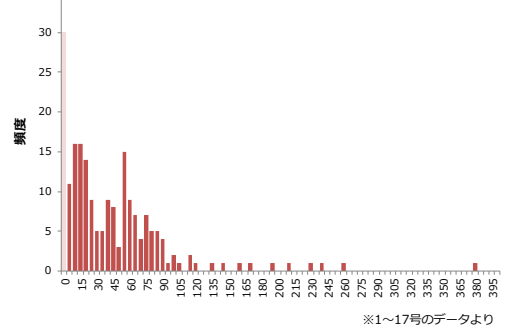


## JJSC の特徴 (2)

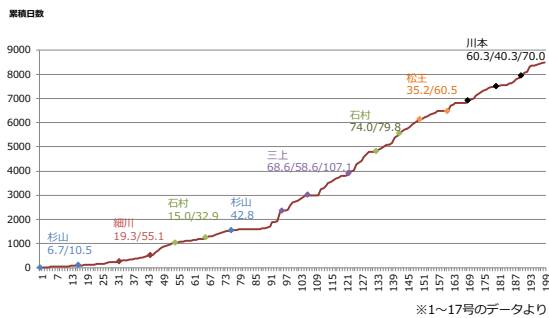
- 北海道大学学術成果コレクション  
HUSCAP登録  
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>
- HUSCAPからダウンロード履歴を確認可  
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/statistics/statslist.php?statsurl=2072b8v850v2x8c>
- 「JJSC」を読む会を開催
  - 有志の北大教員による「JJSCを読む会」主催

## JJSCの特徴 (3)

迅速な査読・発行



## 累積査読日数



## JJSCの特徴 (4)

実践を中心とした多様な内容



- 掲載原稿のキーワードの頻度から
  - 1本につき5つのキーワードが指定されている
  - 168原稿のキーワードを使用
  - <http://www.wordle.net/>

## Science Communicationを除去



- 実践活動に関する論考が多い
- 多分野からの投稿
  - 科学技術社会論・科学広報・科学技術ジャーナリズム・科学哲学
- 学生・非研究者からも投稿

## 境界領域のジャーナルとしての課題

- 理工系
  - 事例を網羅的に記述してしまう
    - 事例をどのような観点で分析するか
    - 何を記録しどう分析することでそれが明らかになるのか
      - 基本は理工系の論文とそれほど変わらないが...
- 人文社会系
  - 科学技術コミュニケーションとしての意義が不明瞭
    - 既に個別専門分野で明らかになっていることの焼き直しでは？
      - その分野の研究者に査読を依頼
- 非学術系
  - そもそも書いた事がない/書く動機が強い



## 課題への対応

1. フォーマットの作成 (14号~)
  - 執筆要領に従わない原稿の多さ
    - 投稿用テンプレートファイル (MS Word) を用意
2. 原稿種類に「ノート」を追加 (15号~)
  - 論文・報告・ノート
  - 実践活動や事例考察を、素早く簡潔に公開
3. 編集方針等の改訂 (15号~)
  - 投稿者に対して
    - 専門外でも背景と内容が理解できるように書く
    - 科学技術コミュニケーションとしての意義を示す
  - 編集者・査読者に対して
    - 教育的観点からの査読



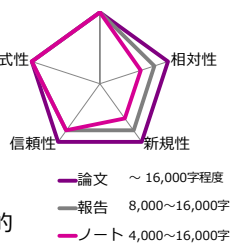
## 査読基準

詳細については  
ウェブサイトを参照

- 有用性
  - 科学技術コミュニケーションの論考として有用か
- 相対性
  - 先行事例を踏まえているか
- 新規性
  - 先行事例との違いはあるか
- 信頼性
  - 論旨・根拠は明快か
- 形式性
  - 文章は明瞭か、執筆要領に合致しているか

## 論文・報告・ノートの違い

- 異なる「有用性」 ← 有用性
- ※ 参考)
  - 学術的・マクロ/複数事例
    - 論文 > 報告 > ノート
  - 実践的・個別事例
    - 報告 ≧ ノート ≧ 論文
  - 速報的・記事的・エッセイ的
    - ノート >> 報告 > 論文



## まとめ



- 意義
  - 真にオープンな日本唯一の科学技術コミュニケーション学術誌
  - 定期的・迅速に刊行しジャーナル共同体を立ち上げ・維持
- 課題
  - 次世代の育成・幅広い分野からの投稿
  - 学術的性格と実践的性格のバランス